



赤ちゃんの心を育てる〜メディア社会の中で〜



写真：1



注1) 映像メディア…テレビ、ビデオ、DVD、タブレット端末、テレビゲーム、携帯ゲームなど。



① じゃん!! アイパッド買っちゃった!

「牛はつかえない？」の巻

テレビを初めとして、現在様々な映像メディア（以下メディア…注1）が私たちの生活になくはならないものとなってきています。今回は、そんなメディア社会の中で赤ちゃんの心を育てる上で意識してほしいことについてお伝えします。

メディアと赤ちゃんの現状

座ることができるようになった7〜8カ月の赤ちゃんに、iPad（アイパッド…写真1）を与えると巧みに操作ができるようになります。長い時間集中して1人で動画を操作しながら見続ける赤ちゃんもいます。

メディア利用の影響

メディアに長時間接すると、赤ちゃんが人とのやりとりや体を使った遊びに集中する時間が十分にとれなくなる

佐呂間町の現状

テレビを例にすると、佐呂間町の1歳6ヶ月健診でのアンケートでは、「時間、番組を決めて見せている」78・8%、「ほとんど見ていないのに1日中テレビをつけている」12・1%で、9割以上の家庭が日常的にテレビを利用していることがわかります。むしろ私たち大人の生活にメディアは欠かせないものとなっていて、赤ちゃんにメディアを全く見せないというのは現実的ではないのが現状です。

メディアに接する時間を制限することは大人にとっても大変なことです。メディアを使うことで、赤ちゃんが静かになり忙しい時間のやりくりができる…という一面もありますが、大人の都合で育児をメディアに任せるとはいいきません。親だけではなく、子どもにかかわる周囲の大人は赤ちゃんのために、今できることから取り組むことが必要ではないでしょうか。

赤ちゃんの心と体の育ち

赤ちゃんは、人とのやりとりから人と関わる楽しさを学び、コミュニケーションの基礎的な力を身に付けていきます。赤ちゃんに声をかけると赤ちゃんも「アアア」と会話するかのようになり返事をします。自分が声を出すことで相手は笑顔になると、赤ちゃんも嬉しくなったりまた声を出します。「いないいないばあ」をすると、笑い声をたたり、またやってくるかもと期待して相手を見つめます。それを何回も繰り返すうちに自分も真似をして「いないいないばあ」をするようになります。このようなやりとりを通して記憶力や予測する力、人と関わる楽しさが育まれます。この赤ちゃんの力を育てるために、起きている時間は十分に遊び、やりとりをする積み重ねが大切なのです。

- ◆ 赤ちゃんの心の育ちを守るために気を付けたい6つのポイント。
- ① 赤ちゃんに声をかけるときは、目を見て笑いかける。
- ② 授乳中、食事中はメディアを消す。
- ③ 見ていないときはメディアを消す。
- ④ メディアを利用するときは1人で使わずに親もかわる。
- ⑤ メディアを利用する時間を決める。
- ⑥ 赤ちゃんが寝てからメディアを使う。

